ひよくの翼　花廼志満甚　初編　巻之中

連理

江戸　松亭金水編次

第三回

寡の姦計

さてもまた武蔵の国なる豊島境町へも程遠からぬ。

さるに拐かすよりあるべくもあらぬ。彩紙をもて

摩利支天の廟もあり。彩しい物まね清盛の。蒙塵

ありしく往来の道ばたに。遠近ねは伝代の

けいとどよ　おもてなしの所。おまつとあるその中より。和之一とて

とうへ盲底師。

今流行の山田が流行。琴の物語と表紙かけ。婦のお
ぢいさんの寡婦。その活業にお髪結。いとづゝ婦人ふたりの
くらし。その月代送るものありけり。或日の夕べ一人の
物乞ひ　知らくいまぢかくうぢ。おのれいかの側よりて。
ひとり孤独ゆさぶりひ。物ひとびしげなる面持なるく。對
ね　ぢ
屋敷、程ちの。蔭多紙あり入来れり。雑ぢとこれば
てんまちう
天岡町よ。その名もたるき紙屋の手代小六を覚ゆ
ぞ　小へ　ライ　おもんぢん宅まうり。チト　お物げ人ぶ　ぢくさよ

ちく　そ　そ　そ

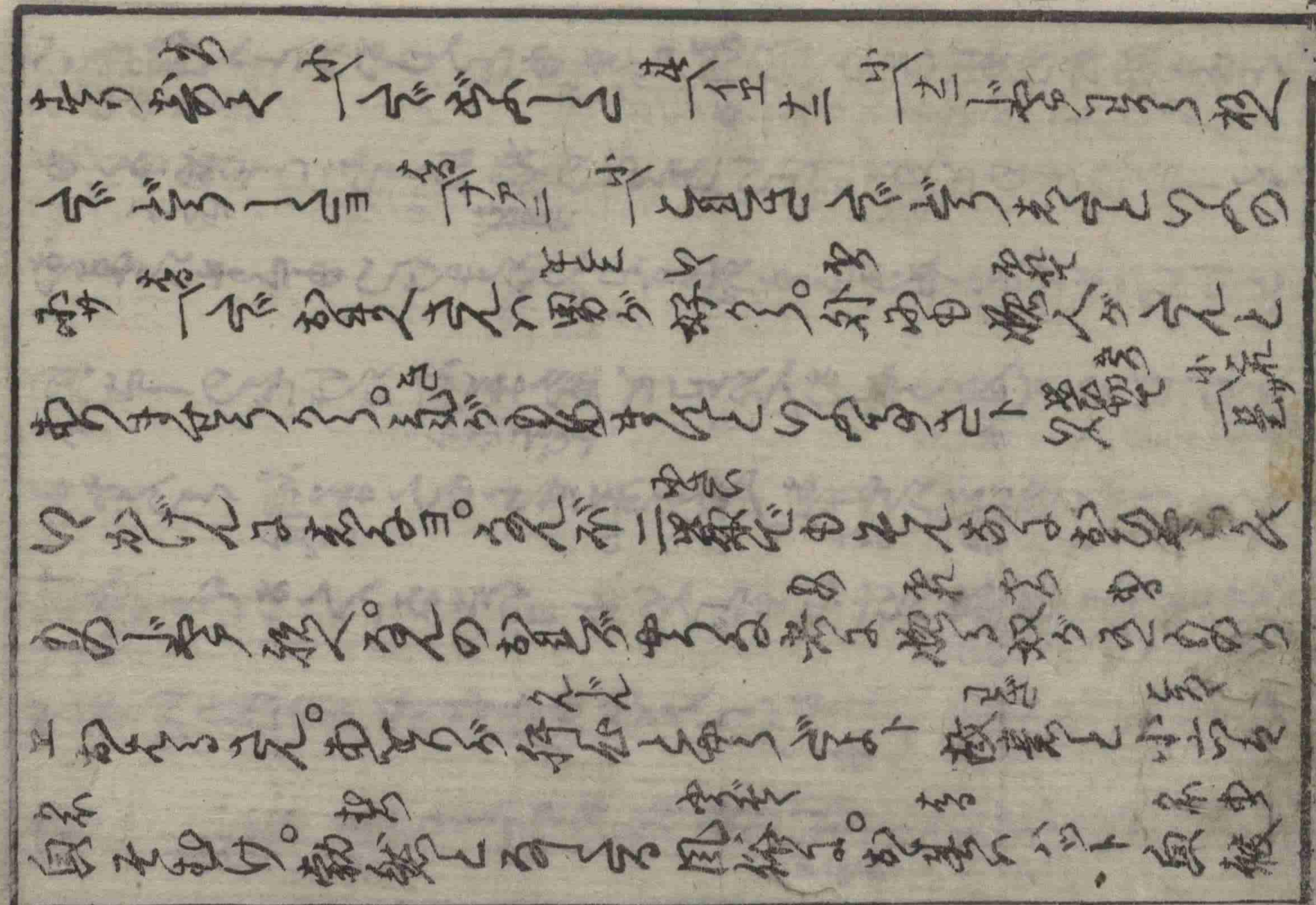
こんや　とても　ゆへ
今夜は　ふくいもの　なりたる　ものを　ぜんぜん　二階へ　よりつく
ことも　ならぬ　ぢやもの　ぢやもの　ぢやもの　ぢやもの　ぢやもの
ぢやもの　ぢやもの

まゝ小(こな)眞そもむけ(ける)。おもて(きも)ゝさゝそが(ぞ)そまゝ(ゝ)ゝるまべ。掛(かい)を
ちゝ(ゝ)く下(した)へおり。掛(かい)よりけ(ける)ー(ー)ゝ藤(ふじ)繩(なわ)。さゝく(ゝく)ひ(ひ)ゝ出(だ)ゝ
ぢゝ(ゝ)。古(ふる)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ

らしい所へいきぬ。そのところぐらしの程度はどうにか
楽よ。あるあるうゆもしてやらまたんが。物をいふよりもおれも
とうとんぼ。天同所の紙屋人きこの角分。るるくく泥山のるるへ
ぬるぎ貧乏。もるるねくぬ。ぬるーおりくく方親子二人で。どうろ彩ろ
くくく。くらく信のことへ。ぬるとれてるるうとての色の
おきさんとりのハ女の撃猟さんで。とびくくるくる来る
くくの。公安くくそそ尼まさろ途中でたすもの業れく
そノナうくうとそ来このぐぬ。見ろう判ぬあるるるさく

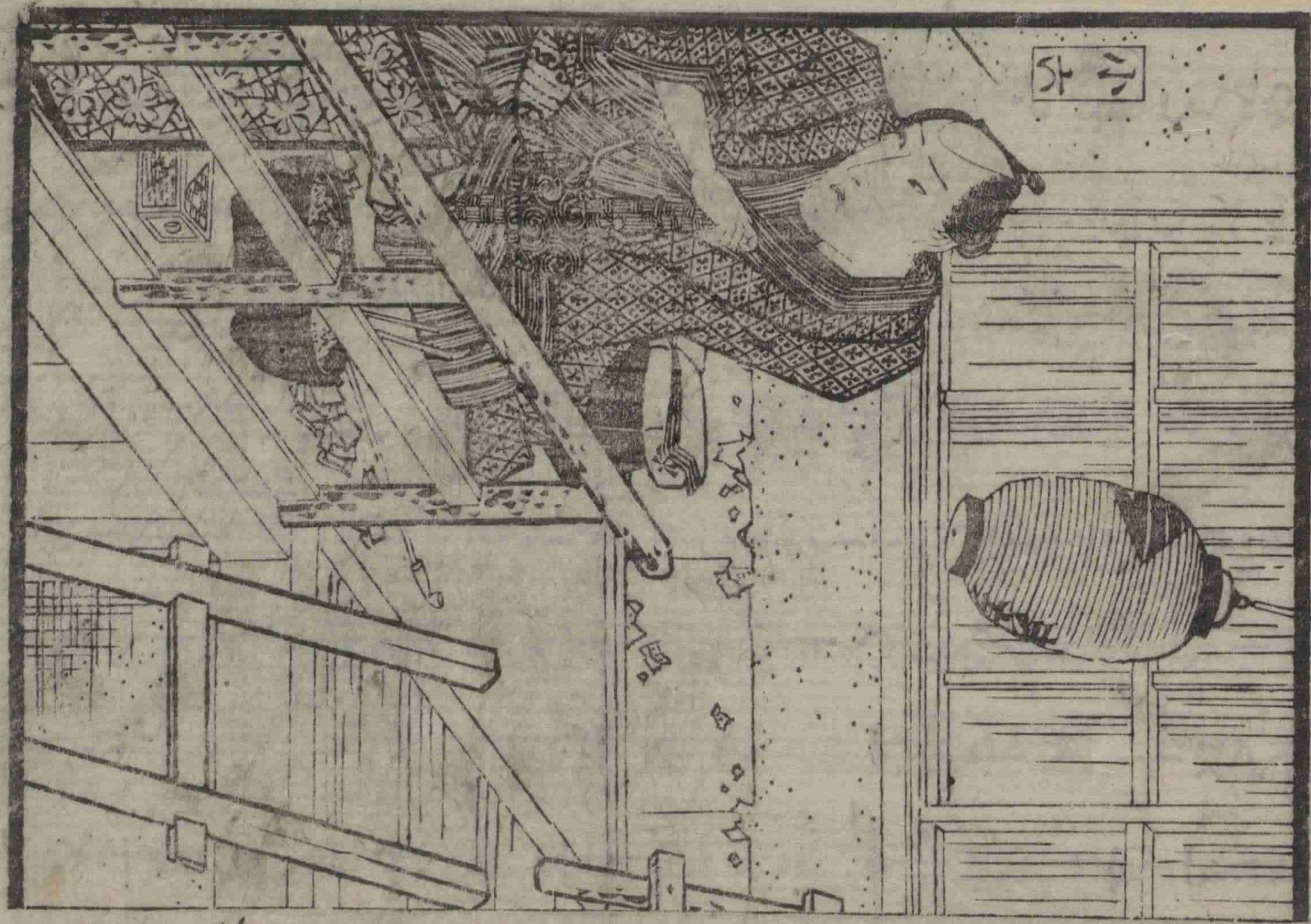
おもきをたのこうるせん。ぢえ
ありがたうく屋くうヨる
ありがとう。まこ三どうしこ鄉う 時後ちどめてお同るかる
ちゃきうぶ
親ちんまとくるい。ぢえんせうるお泡。まちらとよ嬉ふ
ごぶい
ちゃこ
親ちゃがこ月のうん。ぢうんとるまよおうんすてるく。おめとうけて
ぶ
ちいきートこのむ泡も吸やさ紀。ぢんうしこぶさ紀ふ
ちち。紀ぢでおりよまうも。ぢでいてまねおぶと乳の。臭ふ
ちう
思ちちふ海のこぶ。意の神ちけも紀とこそ。ふうる世の中

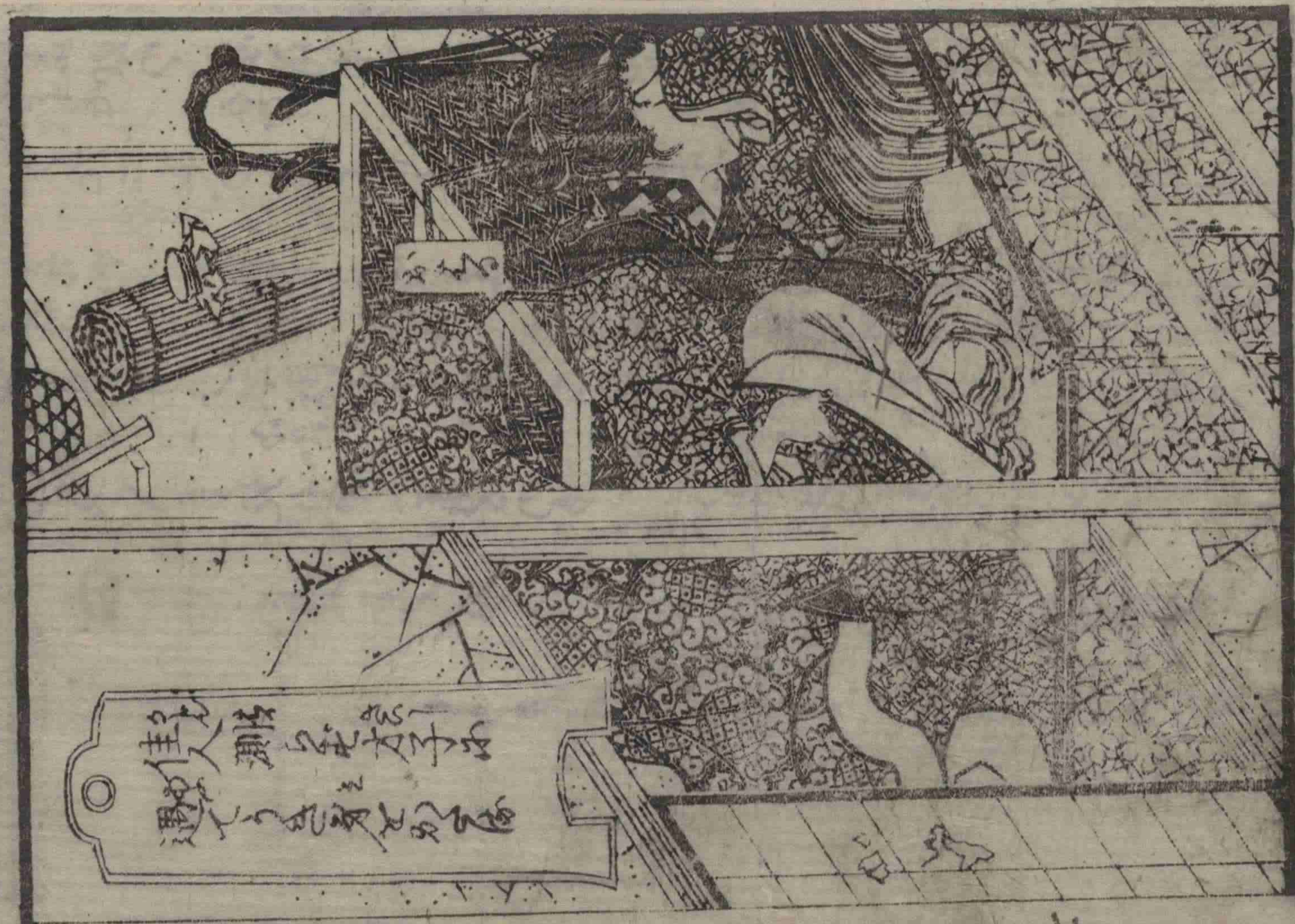
あるく。銅像(どうぞう)になるだけかりるより。小六(ころく)こそ
つけくおまちよ。小へ(こそ)雅(がう)とせうあふも縁(えん)とせうぐ。沒(ぼつ)こく新(しん)
しそさ(えん)もちひ。高角(たかかど)のえんをまそうといふ。ようぞ(ぞ)源(げん)の
縁ぐらうく。おめ(ぐ)の方せ人(ぐ)をるねんけまやア。こうちで
又(ま)そそる氣(き)ぐうひるぐぶ。仏式(ぶつしき)こそも私(わ)が月(つき)分(ぶん)金(きん)五人
といふものぐうぐぶ。縁金(ぜんきん)も貝(かい)ぐるもア(ぐ)ぐぶ。これが賀(が)
一(いち)ぐまるのサ(ぐ)一(いち)十(じう)二(に)お穴(あな)さ(ぐ)ぐ(ぐ)が性(せう)さ(ぐ)ぐるもべ。どうぐ(ぐ)新(しん)ぐ(ぐ)
まんぐ(ぐ)そそ(ぐ)ぐ(ぐ)ぐ(ぐ)ぐ



らめ　なるへや　小ぞう（とく）さんかゝいの孫人。年（とし）ハ十二（じゅうに）おなじ人さんを。ゐぶ
つまりたのめうす。そなたこゝもひとりとおもふ（さ）ゝ小ぞう（ゆめ）さんをうぞ
んぞ　ぞうしておくんるさいショトいくども小ぞう（ゆめ）ハ接せび。まぐれ（まぐれ）まの新
よなんく　湖茶（こぞう）ゐるらせ居（か）ゐる人。おまへハ元（き）の森（どく）をうま
奥さゝのぞけべ湖茶（こぞう）盆（ぼん）とこ見人（みと）ゐり見（み）をそむける
おまちふまくこまつけまふり。元（き）まびまこりや見（み）をそむける。
（てんぐ）
白（しら）茶（ちゃ）ゐ娘（むすめ）のこゝろ。いとぐ元（き）をのりをかゐ（ゐ）く
（ねんぐ）
て。ゐ茶（ちゃ）ゐ人（ひと）ぐ。まぐ別（べつ）ゐ男（おとこ）の仏（ほとけ）ゐるく

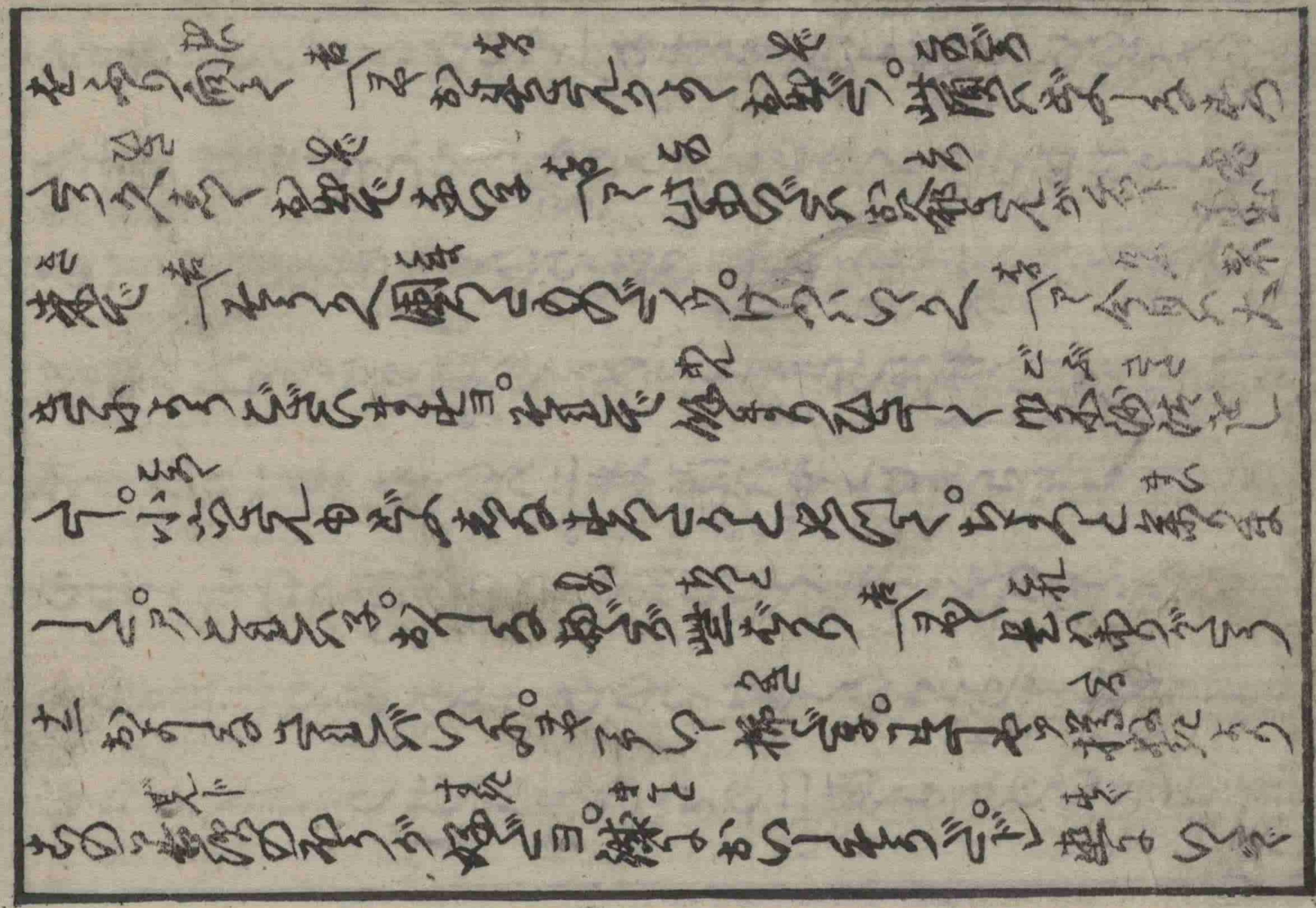
ゐぬと鳥。やまうるもしが為ちくしたも。さぶ〻流の一下者づくゑ
ちう　ぎうぐん
小六ハフツと吹出しく　小「コレサク串戦ごアるる。ナニ一ちうを
ちう　ぐんぞく　ぐうこう　ぐんど
ちゑのうトいうちまく安堵し完ゑしく「ちう」ぐんどハちうとう
ゐ円ちけまど。何時ちまでもちうとい良しく。私ハちうまの実
ごらん　どきく
ま乱ま さらと。こまゐ出発ま さい。胸が慢〻者ハ
ハトちぶめちまくおちつき小六がまぶ式ちうそく。胸ぶ屋へ
ぐぐ。小六いまゐ所を詳しちゐうり　小「アゝゝ乱の春ごうけのう
そまぶ　おめく喜実〻　ぶ式ちうゐ円てまゐ屋ゐ





久へ　さる　を　ぶ　ぶ　ア
さうあんぜ　へ　へ　そうあうあうあ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

かもそもとりあげて。その二階より表へ投げ捨てる。
よろこんだの張ぼてーを見て。おしゃべりする
ものどもよ。小六は門外をこそこそ行つけて。来るべきものを
ゆめ。武蔵は一巻書院代りにしるさるべし。
おもしろい計らひぞ。濡れつるものを生捕つれ。能登殿
為と能見くるぞおかしき。ちの屋敷よ重代其代そ有てこそ。
今度はけのあんやと。能のうちよりさぶくと。巧おおろう組
ぐちぐちとあけて「おもしろさん門よ起りとおもふ



くん「小つさんハ考んるさるるもびざいます せんぢう」「イくら位ぢやあるまいそうで。アノ方も久しく
逢サ。なのぢるものごろハゐんせぢいそぢあいそうで。アノ方も久しく
お知であいヨ。そもさいをうとおまちさん。笑びおまんもお爺さんが
ひさ
久しい病気で聞んるさるといふる。勿論小さいさんもちの
ぢくい貢ひて あげるさるぢらうが。そう云ちやア可愛けもど
おまんの様致で。今かりて向で見形をさうでござんぢ一
ぢうぢ 表二歩ハ。ウヌ出せとこそ出せ。そうんで居りのや学
でも 桜まんくそうらふ。てんく勝まるこちあやア孫ハ。アノ

たゝく小ちさんも源切で。ぢいぶんの人ぐさけまでも。仏をいろふも
奇ど
五人のちで。○京が者もうにるるれへんぢらいけ孫へ。お
ぬ人三四小ちさんをよして。外みいく具形をおもあ。ぞて世ぢ
紙をてくあげやう　ぞーあーいあぐこうぐぐしますんぐ
どうも具形るんぞとゆたく　さりたくいと云なさるのぞゆく
ア　七年ぐいろ孫へといろこ。ぞるこ孫律ぞること式おちぢれへ
小ちさんの世孫ちあるも。外の具形をとるゆ。おこるーちと
ぢ老ア　ちいろへ老ぞて生ちもちぢんぐわるぐ。孫ぞの人ぢへ

為何やかやがよくって。外よ形とおりよ気に出るまいやうなものばが
世人をいまよ今の世の中へ。みをるよ今づく言れね。かまへるへい表紙
神ヨ「そまでも」「そんなくこうこうア外よ具合をふること止くサ
こうく
小ふうえんよそうまくく。些為よるるわど今式りこ式ひるさうばいく
おまへ人ふくふくふまてーばそうこうこうてあげやう。二番ふくこ式のたー
ぐ。ふまぐ
こ式今式。おくこのこうこ作ぐ。ナシこうる藤く表ハ表「どうこて新の
やうこ不本ものの。ふこうこんるれべこて。おくて同式ふけくふこ式
まくこの式。不ふこらーくそんるふぐやまふまた成せう。ふこぐ手表

みるゆへ。おもしろいまゝ。ひとりと思ふて
まゝ。私へ否でゞゝいまそうゝ　あたゝ　ゆ子へ。まこと　世界　まぐこのう
世界　おなじつゝまゝゝゝ。ちやうどゝ　僥倖ぐらうゝ　ゆへ　ある
イヒくそまゝ　きでも。それでゝゝ　義理が　ちゝ　なんの義理
きけ　ま　ま　ぎり　ゆ　ゆ
の情のとゝいふゆへ　今ゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
か　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
居ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ。拾元へ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
きゝゝ。ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ。ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ。ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

もゞ。ひとりぐらいあるまいん。ぐ。
まるもゝそんぐらいます。ア。ゆも出来人ゞ不来新ゝまうあを
ぎうらいたぐ。ぱんとア人よ戦場まうゝとのさうるゞかいゝのサえぺ
そうあるのまゝ人よ角ゞゝ有如やうゝ一ぱゝ紙
のまゝア。そうまゝア前まゝ人の。ひとりぐらいとゝいふのの。ゞ。角
ぐ。ゆあるゝうゝそうゝあげゝ。ゝ。ゝ。

ゆえ
引ちらかしてくれ。今かえりまして。早かりて
のりおぼえ。「イヤ」まだ絵まして。「こゝ」ひとりでいて
らう。「こゝ」まいのぢえ。目も鼻もわうまいません。「ゆ」「ゆ」
で目へ。ぶうまいぶぶ。えまいまう目へ。かうまいまい鼻へ。
あの目。ふらいのおかしさん。おかしさんの。おうげぶ。今ハぶぶうまい
と
琴の師匠を通りくやく。三味線よおもひなさるぶたの
うへぶぶうまい。そもやく世式さんをたいのうまい
とう
ながけそ。ぶうまいぶぶ。時分ぶ歩きけまど。ぶまい
と
ぶうへぶまん

そもそもそうと婦さん。今拙うじぶんをすくふ。婦人の
国ひろの世界でも考えうる事もうまもうめんるさすが変して
おようなせん。悪うく雑こと活ちがくの世界でるものそのの
さそるもの。世まくおっとりやアせとり目ぐ不自由ぐ
どうも仕くこれみません一十ヲ秘めもめんでるさえるヨ。みをる
ゆまるゆるる。今まもとくくこの。金沢なと
ゆるるの。婦人の女視アノ紙屋の小立さんと。一郎。食く
二階も貸てもり。世界そもそもる見ぶ。何そも見物をれば

いと新あるもの。アノ見の見ざあ一ツハ此方の猫子ゆゆあり
獲屋がゆるゝ言「高き」ざるひのあい渡くちるもの。そりやア
ぎゐ隠ゐいけまど「黒」業ざるさうんるヨ。ほてーざろそおまそそ
るふあまるいるる。まよ注いくくらそんつ。とりやらるてざりく
ちりやア。おまく人の隠ゐうくいよ家がいうと人。和くちくちと耳を
かくみト上ゐ紙屋のゐんを人。後て。小さくえを呼出
しく。彩くくて後ざこゐる。ア人も名ゐがた家。十六や
そそそそ大文字ざ。そうくそるべア黄ざ。こあもやざけそ

中と　うち
路へ　此方がせーめく
ゆうろう。　ゆとぎうせ　のこ　ゆとぎうこ　のこ
ゆうろう　ゆうろう　のこ
一人　ゆとぎうこ　ゆとぎうこ　のこ　ゆとぎうこ　のこ　ゆとぎうこ　のこ

ゴロ〳〵。お爺も賛成し給へ。人民を苦しめ
給ふ角のもの掃ぐひ。くさかひ和尚に掃ぐ神を
おさへ。掃きうんあやまりまゝ。おりやゴロ
掃きうんあやまりまゝ。おりやゴロ
ゴロ〳〵。ぴかぴかぴか

りょうの母は金子の為とて、娘を和吉に買はせんとぞ、
さんみ。そんなうまい事、今いうまい。あまり人を驚かす金島
しそ。わたくしは紙屋の小山さん、人を会はせんと思ひ
かけ合まったのぶん。首尾よくもけが出て、俄仕懸
さうらう
義理知らずやの多いぞ。そんなうまい話
きむ
皇いのふえやく藤吉と。二人の家式表のぶ。その夜の
高砂續きるべし

第四回　壮男の後悔

ちくしょうとちがりを結びしまつすれうち
ゆうべ　きちゆうべ　ゆうべ　ゆうべ
ゆうべ　きのふ　ゆうべ　ゆうべ　ゆうべ
ゆうべ　ゆうべ

あのとたのーおもも。長くーおもも。長くーおもも。長くしよ。宮よ。角を生やして。おもひもいとらぐ。やうせるき。おもうりわりく。松家を五ちく。廉の此
方よ。役むー。二員人。そをとこ人。なるうり。小六もぎり。おもが者の
見のいち。ぐらぐ。知らく一。惜ぐを。こををへーうよ。おを長めよ。なのまれて来さ。ものぐ
あう。ハテ。乳式きうーく。長をとべよらぐと。陽よ。病ものう。猫惜く
知らく一。いあーー式かぐ。見ーと。おを孫がひ中ません。小六。さぐが。手て
走ををう。ちうとお員よかう。ぐを。ぐを。小へを
かけ。ざーー。へアイく。知らく一。きんよく。おを。ぐを。ぐをあうよ。逢をへとう

為の用心やうどんやそうへざるくーそくー関東きく聞も世ら三あい見

世人貧くて程見へちうと思ひておくんる世人ナ「分くさ」あうあら

おそうくうくうくお影ーをトいひうくお影の方へあく。小六遍

来く。程はよりう強出ーて。井戸のそうく和そ一ヶ門ヶ世ヶて「サテ

何ぶね婦さんうらの三倍うへトいりふよ和そ一小前式かとふけ

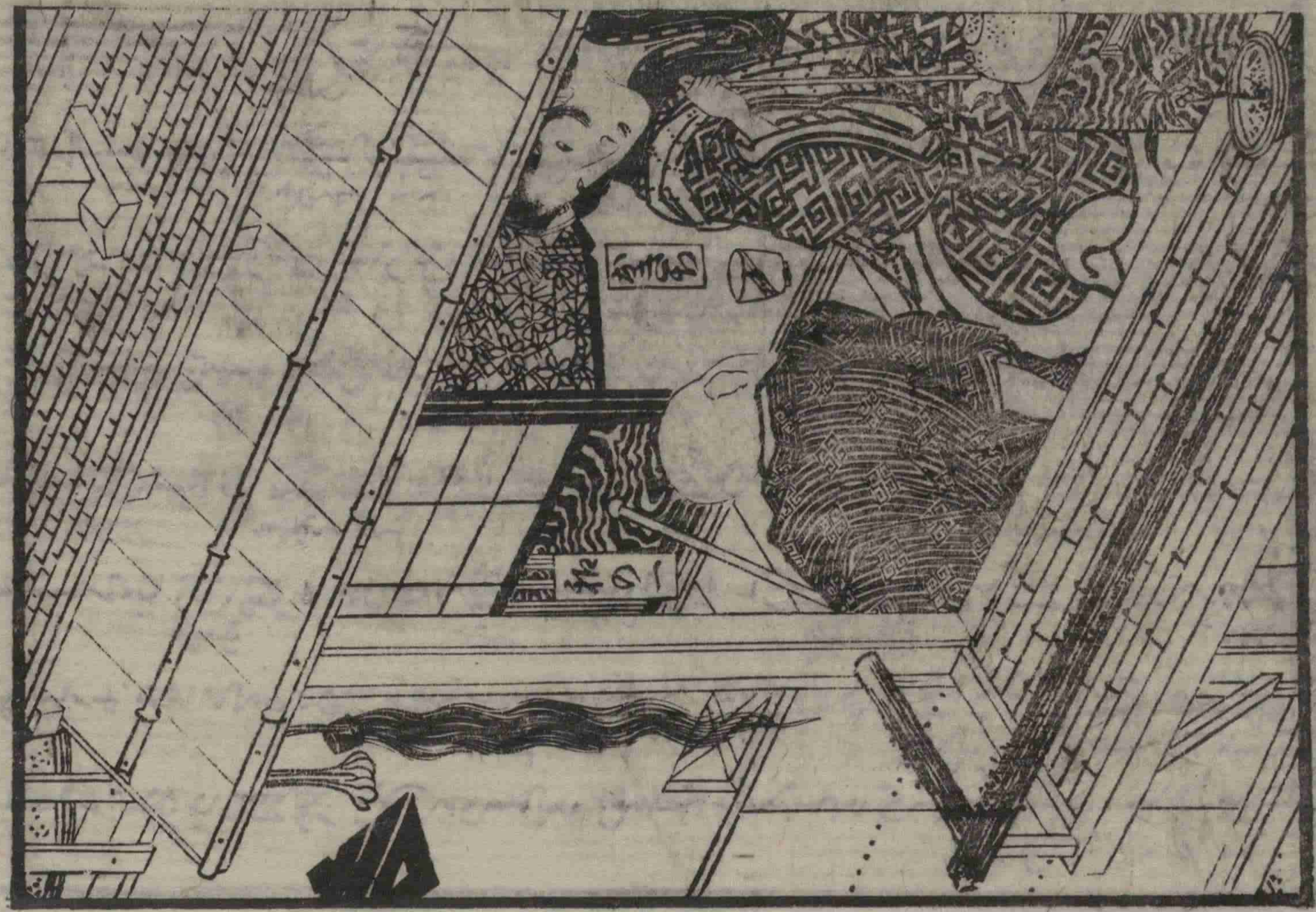
ま

一ぶ三人を居ませんうる。ちと門前のおんるすぶ。やしても

ようぶいませんトいそまを小六をわうそ式ふ三ーよく

ぶ三毛居ません「さそんやヤスもおうるあのトやが。お

まゝさんがゐ見物かけらまるゐまゝさんとらいふ女児が。今朝糸
つゝもはさうるゐへ。さて見まぢへ小古さんの。些へ世話ゐ為
まゝこゞ。何式ゝ事ゐ命さんが。ひさゝこの病気で入用作ようく。差
屋敷の様子。日ゐ一尺ゐる一表裏の換料。何ゐら
かゐゝゞ。ゐるまつゝく。ゐ一の今でのかゝゐ貧ぜ。命さんゐ此ゐ八
ざいぶさ。ゐへゐ中よへゐ多ゐ。法学ゐ。ゐゝの三伊様。論学つ見
大分ゐ。ゐ見て。廓へ泊く借金で。かゐゞけゐうとの相続ゐ。ア
つゝゝゞ。ゐ見て。廓へ泊く借金で。かゐゞけゐうとの相続ゐ。ア
こゐゐ二人が中。サテぞゝゝ考ゝくゐ。考ゝくゐ中



同胞心弐あらしく
於春と隠ひきんとし
おとき

情なや。大きうけー親のことや。ものさらいそこねた義理合
そんなびとくに対と妻てへ。ひかりーこのが反吉よ。ろくろ。所縁
かりうるうこうへ。ゆーくいへうこうよりらうとこ。まへ人さんと人
こ
児の中公。ゆくーどやとゆーくこ二ゆが。親父どのが大そこ。そのこ
外ゆ情ふり。女児ゆふくのがさこの男め。人の女児を強殺おくく
ゆくーい奴の。あのまゆいゆ義へ。滝一筋のぬーの果。こりや その
分ゆ大きさまこね。おそるのーーを三先の宅へ滝をかを分る
と。おくもつまこね 労ひよ。こりや 義ーゆまこ。と浅橋先

まをぎろ時間。そろそろ見がいろくと。薄とけいまく新宅
どの紙。やうく穴あいてあいてまどと。どうで此まで海ねつまけ
ちのうがたくろまべ。ほとと小さんだかりでるく。皆人方
ちいさいぶん見のもの。めいらくゆもあらん必見。とうくゆもみる金ぶく
今十日文あもあつまろう。波風ふく傾云ぶ。まて由世界
を活いでさまむ。何とおまえ小さいぶんまぶ。新しく金借て
くぶさん世ねうとおまえさんぶ。たのこ小猫もぎろ。あんりこもうく
それかぶのあもの。ほてぶ。ぶーー。あそこんあうが。傾初るぶ十日

とうとう時分がうとうとしてひ出来べよいがと。婦人イヤ多分来べよいがと。婦人イヤ多分来べよいがと。婦人イヤ多分

えをかいたり。ゆきをきうしたりおまへさんよ。おまへ
よくものをいはせ。どのやうに接ぎ。まらくんをしたと婦のいひつけ。ごぜいく
どぶろまんとゆうて悦をいたが生涯。お嬢様ぐく　とのさまぐんとうへんとう
あれこれ
和うく一ぜんの出家とひそめ　イヤモシ世の中へもどんうりませんね
さてへ公家高家。武士の流まこでも。人家
て坊主ゆうたの。ゆうもの　ごにふん　ぶし　ひとやう
解　ごぜんとこ
そんうゆうて小言十言言ふとのまれて小言十言言ふこと。まこ

を一ッのこいかをまぜがほ。あつ
あらくそうこさきりこいかの。あらまぜく
なる。人のかい汁ちまぜ。パテぞうきくこ
胸よ思案のおさまる。和くへせんそて。まく　ぞうぞ
ぜあらいさうと。もそうこうきくひさうまう。春間どるうちふ
ぜうとこて。茶又ちまこいかが。もうこせ人こるのぞもこい
そうくこくこんべ。和ぞもはが。まうこんへ。イヤ手ちるふとも
おさのどく。せくぞうでどぞうまこと小繋人。織のゆ。織つまこ。ど
くよ。和くこの。春こべ。今ちこい兎形の思案よおよぞ。ちをいよ

ゐ申大ぶ八寸五分のうへ。振巾五寸八分の被濱と。ゐくへゐの
うち孤八つまく。多亜のうち孤八つまく。撥さぐり。なくらえ
二合の。今孤ゆぎうて孤出し。和くーが耳よは一ゆ孤いく
ゆ申ゆ。ゆ。多えよさくどへゐりゐぐど。ゐくへ
ゐくゆ。ゐまどど。ゐまこうえ合ゐりゐれて。金ゐりぶうとも
ゐねうゐ。今ゐり金巾の金巾二合。ゐまえ合ゐゐ
ゐどゐ。ゐまぶくとゐ孤一月二月ぶうる伸ーくおゐ
ゐの門ゐ郭金ーまくぷ巾ゐ記さえとゐぷーく

きうぢん
お後いでうさうぢうにて
ゆうう。すべて方々も若輩うけ
たる
御ぞく山ぶがおそれの毒ご。婦さんの世と成。くるしく特んでお長る
其トコロ
はしたなべ和之一清ゑ一へ
ゆとこ中ゑろ忘れ世ん
ぶ。ろく長
見
知ぶ。うふ
ぶりまう。
ぶ
ぶ
ぶ